

【戦略3】「園芸大国やまがた」の実現（その1）

本県の強みである果樹のブランド力の強化、水田フル活用による野菜等の大規模園芸団地化、次世代型施設園芸の導入により、園芸作物のさらなる拡大を目指していく。

(1) 果樹 ～ブランド力のさらなる強化と次世代につなぐ果樹産地の強化～

① 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H31目標値	H32目標値
さくらんぼ収穫量	13,200t (H27)	14,200t (H30)	14,200t	14,300t
さくらんぼ産出額	332億円 (H26)	368億円 (H29)	343億円	345億円
さくらんぼ大玉品種の開発	-	1品種登録出願	1品種登録	-

【前年度までの主な取組状況、評価・課題等】

<前年度までの主な取組状況>

○オール山形によるブランド力の強化

- ・協議会開催による生産・販売の取組内容の検討及び評価・検証(4/17、9/4)
- ・日本一さくらんぼ産地総決起大会を開催(6/5)
- ・省力・軽労化樹形の研修会を園芸試験場で開催し(9/12)、マニュアルを作成(3月)

○「山形C12号」のブランド化と導入の促進

- ・「山形C12号」ブランド化プロジェクト会議を設置し、ブランド化プランを策定(6/1)
- ・生産者登録制度を制定(7/9)し、苗木供給
- ・「山形C12号」の新名称を公募(6/12～7/31)

<評価・課題等>

○オール山形によるブランド力の強化

- ・平成30年産の収穫量は14,200tで、産出額は過去最高を上回る見込みである。更なる産出額の増加に向け、取組みを継続する必要がある。

○「山形C12号」のブランド化と導入の促進

- ・平成30年度は約1,400の経営体が生産者登録されており、早期のブランド化に向けた生産対策、流通・販売対策を進める必要がある。



■日本一さくらんぼ産地総決起大会



■「山形C12号」生産者登録証の交付

【今後の推進方向】

○オール山形によるブランド力の強化

- ・これまでのオール山形体制による高品質安定生産・厳選出荷の取組みに加え、省力・軽労化樹形の導入の加速化に向けたソフト・ハード両面からの支援を進めていく。

○「山形C12号」のブランド化と導入の促進

- ・速やかなブランド化を図るため、生産者登録制度による知的財産の保護を図るとともに、「佐藤錦」からの改植を基本とした導入を進めながら、大玉果実の生産を進め、早期に出荷ロットの確保を目指していく。

【31年度の主な取組み】

○オール山形によるブランド力の強化

- ・今年度のアクションプランを検討するための協議会の開催(4/16)
- ・安定生産に向けた防霜対策や結実確保対策キャラバンの開催(4月)
- ・出荷規格順守の巡回活動の実施(5～6月)
- ・省力・軽労化樹形の導入推進に向けた現地研修会の開催(5/18)
- ・山形さくらんぼキックオフイベントの開催(6/6)
- ・今年度の総括と生産から販売までの取組内容の評価・検討(9月)

○「山形C12号」のブランド化と導入の促進

- ・生産対策、流通・販売対策を検討するプロジェクト会議の開催(5、8月)
- ・流通・販売対策を検討するための消費地の市場流通関係者対象の求評会の開催(6月)
- ・「山形C12号」の植栽状況の現地確認(8月)
- ・名称の国内及び国外(台湾、香港、中国、韓国)での商標登録(年度内)



■さくらんぼの平棚仕立て



■大玉新品種「山形C12号」

【戦略3】「園芸大国やまがた」の実現（その2）

(4) 園芸産地の基盤強化 ～大規模園芸団地づくりや水田畑地化等による産地基盤の強化～

① 園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H31目標値	H32目標値
新たな大規模集積園芸団地数(累計)	—	12団地(H30)	15団地	20団地

【前年度までの主な取組状況、評価・課題等】

<前年度までの主な取組状況>

- 大規模集積団地づくりに向けた合意形成
 - ・各総合支庁に園芸団地化推進員を配置(計4人、H29～)
 - ・園芸団地化推進員や団地化支援チームの活動により、これまでの2年間で、12か所で団地化計画を策定
- 大規模集積団地の整備支援
 - ・園芸大規模集積団地整備支援事業のほか各種補助事業を活用し、12団地で機械・施設等の整備に着手

<29年度に団地化した地区>

1	山形市(南石関)	セルリー
2	山形市(中沼)	きゅうり
3	西川町(吉川ほか)	啓翁桜
4	真室川町(及位)	ブロッコリー
5	白鷹町(鮎貝ほか)	えだまめ
6	酒田市(袖浦)	ゆり・カラー

<30年度に団地化した地区>

1	山形市(本沢)	シャインマスカット
2	村山市(拝見)	すいか
3	東根市(高崎ほか)	啓翁桜
4	尾花沢市(荻袋)	すいか
5	川西町(吉島ほか)	えだまめ
6	真室川町(平岡)	にら

<評価・課題等>

- 大規模集積団地づくりに向けた合意形成
 - ・目標の20団地(H32)に向けては、引き続き掘り起こし活動を強化していく必要がある。
- 大規模集積団地の整備支援
 - ・各団地の機械・施設等の整備が円滑に進むよう、各補助事業の募集から交付までの手続きを遅延なく実施する必要がある。

【今後の推進方向】

- 引き続き、園芸団地化推進員を配置するとともに、地区ごとに団地化支援チームを設置して、大規模園芸集積団地形成に向けた合意形成や団地化計画の策定を支援。
- 園芸大国やまがた産地育成支援事業の要件を見直し、産地パワーアップ事業が活用できない事例に対応。大規模園芸団地の形成に必要な生産施設の整備や農業機械導入を補助事業により支援。

【31年度の主な取組み】

- 大規模集積団地づくりに向けた合意形成
 - ・各総合支庁に園芸団地化推進員を継続して配置(計4人)
 - ・大規模園芸団地化推進プロジェクト会議(1回)、プロジェクトチーム会議(4回)を定期的に開催して進捗管理
 - ・団地化地区の掘り起こし活動を継続し、団地化計画の策定を支援(目標:5団地)
 - ・29～30年度に団地整備に着手した12団地について、整備から営農開始まで、団地化支援チームが総合的な支援を継続
- 大規模集積団地の整備支援
 - ・引き続き、国庫事業及び県単事業を活用し、団地化の形成に必要な機械・施設等の整備を支援



リース方式団地の現地視察
(山形市中沼：きゅうり団地)



鉄コンテナ活用による出荷作業の省力化
(尾花沢市荻袋：すいか団地)